

平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 貴志南小学校
校長氏名	犬塚 博志
作成日	平成29年3月3日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成を目指す。
 —たくましい子、やさしい子、考える子—

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域との連携を深め、子どもたちをみんなで見守り、育てる学校 ・地域の人材や産業の活用 ・学校の教育活動や行事等を家庭や地域に積極的に広報 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の気持ちを理解し、思いやりのある子どもの育成 ・自尊感情の育成 ・規範意識のある子 ・互いに協力する子の育成 ・生命を大切にする子の育成 ・進んであいさつのできる子の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○「豊かな学力の充実をめざして」～自己表現力を豊かにし、仲間と関わり合いながら伸びていく子どもの姿を求めて～ ・学習の基礎・基本の習得 ・児童の側に立った教育活動の工夫 ・児童の表現活動の育成 ・授業力の向上

取組の状況【O】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観への参加啓発と懇談会の工夫 ・HPの活用 ・児童集会への参加啓発 ・育友会行事、子どもセンター事業への参加啓発 ・地域の人材の活用 ・体験活動の重視 ・行事等の広報活動 ・学校開放月間の広報活動 ・「貴志の教育を高める会」「貴志地域共育コミュニティ」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちどく」の推進 ・道徳教育・人権教育を中心に学校教育全般で規範意識や自尊感情の育成 ・ペア学年活動や仲間づくりの活動の工夫(運動会種目・なわとび集会でのペア活動) ・生活習慣の確立 ・あいさつの励行 ・体験活動の重視 ・QU等アンケート調査の実施 ・「和歌山市ブロック人権教育研究会」の研究指定を受けての発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実 ・漢字博士検定の実施(再チャレンジ制導入) ・補習学習 ・各教科指導で「書く・聞く・話す」に重点をおく。 ・視写テストの実施 ・取り出し指導など個に応じた学習の導入 ・小グループ学習の導入 ・体験を通じた学習の重視 ・学習習慣、学習環境の確立 ・和歌山大学の教育実習校となる。 ・和歌山市指定教育研究校となる。 ・研究授業公開(人権・図工・社会)
----------	---	---	---

取組の結果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開のためのHPは可能な限り更新できた。「修学旅行速報」は保護者からも好評。 ・9月の「夏休み作品展覧会」11月の「作品展」は保護者のみならず地域の方にも大勢観賞いただけた。 ・地元の農家の方に指導していただいた野菜作り、米作りは体験を通じた学びを得られた。 ・育友会や子どもセンター主催の「夏祭り」「餅つき大会」は大勢の保護者・地域の方々の参加を得、交流が深まった。 ・集会等では多くの保護者に参観いただけた。 ・「貴志地域共育コミュニティ」の事業をはじめたおかげで、地域の教材・人材をより活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは児童会や先生によるあいさつ運動により活発になった。見守り隊の方々も積極的に挨拶を促してくださっている。 ・「いじめアンケート」に加え、QU調査により、児童の関係性の把握に努めることができ、アンケート結果からも学校全体の意識も高い結果が得られた。 ・昨年に行っている「ありがとうコンサート」で世話になっている方々への謝意を表す大切さを学ばせることができた。同時に子どもたちの表現を大勢の方々に発信できた。 ・「和歌山市ブロック人権教育研究会」研究発表会で一定の成果と評価を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、「虹色ルーム」「りり色ルーム」の2つを設けての個別の指導は、成果があったが、途中入級の子が増えて、時間割調整が難。 ・「九九階段」「いろは階段」や言葉遊びの掲示、デジタルサイネージでの学習クイズ等の学習環境づくりは一定の効果が認められた。 ・学生ボランティアによる授業補助、外部の講師を招いての「出前授業」は普段の授業を活性化できた。 ・放課後フォローアップ事業で2人の支援員・学生ボランティアとともに担任による補充学習は有効。 ・漢字検定は、本校独自の取組として再チャレンジ制を設け、意欲の持続を図れた。 ・和歌山市幼児児童生徒川端龍子賞学校賞を受賞。
-------------	---	--	---

次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・参観授業の参加は多い一方、懇談会の参加が少ないので、育友会とも連携しながら手立てを講じたい。 ・育友会と子どもセンターで見守り隊の方に謝意を示す「餅つき大会」などを広めていきたい。 ・よりいっそう「貴志地域共育コミュニティ」の取組を活性化し、地域との連携を図りたい。 ・低・中学年の「地域探検」や木工場の見学のように地域素材を教材化し開発するよう努める。 ・コミュニティ・スクール実施に向けての研究を進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の6年生の「老人ホーム慰問」4年生の「障がい者問題学習」などのように、体験を通じた人権学習をより組み入れていく。 ・今後の教科化を見据え、道徳授業の充実を図ると共に、特別活動・総合的な学習の時間・生活科など体験を通じて、実践力を養う。 ・「和歌山市ブロック人権教育研究会」の研究発表のエネルギーを今後も持続し、人権教育を進める。 ・全校で観劇を行ったが、費用の関係で各年実施とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」はアンケートでの肯定評価100%を今後も目指し研修等を通じ授業力を高めたい。 ・今後も、あらゆる子どものために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基本とした。 ・道徳・英語が教科化されることに備え、指導力育成の準備を進める。 ・市指定教育研究校として、論文発表あるいは研究発表会を行い、総括と共に今後への取組の指針とした。 ・のびのびタイムの運用を子どもの実態に合わせて変更していく。
-----------------	--	--	---

3 その他の課題

・年々、個別の支援を必要とする児童が多くなっている。来年度はどれだけの教員を充てられるかは未定だが、大勢の中より個別の指導が望ましい児童のために努力したい。また、関係機関と連携をとりながら、その子にとって最善の環境を提供していきたい。

・校舎の老朽化が目立つ。本年度は6年生も参加して、廊下・階段の壁を明るい色に塗り替えたり、藤棚のペンキを塗り替えたりした。懸案だったトイレを一部洋式化した。教室冷房設置も含め、今後も担当行政に働きかけ続けたい。